

千葉職対連ニュース

発行 千葉労災職業病対策連絡会

〒262-0032 千葉市花見川区幕張町 4-524-2

千葉民医連事務センタービル 2F

TEL/FAX 043-273-9199

E-mail : chiba_syokutairen@ybb.ne.jp

明けましておめでとうございます

会員の皆様におかれましては健やかに新しい年を迎えたこととお喜び申し上げます。

昨年の臨時国会において、過労死やメンタル障害防止に逆行する内容の「働き方改革法案」が野党の反対を押し切り成立しました。特に問題なのは、時間外労働時間の上限を原則1ヶ月45時間、年間360時間としています。特例として臨時的特別事情のある時は1ヶ月100時間、年間720時間とし、過労死認定基準の月100時間を法律で可能にしました。もうひとつは「入国管理法」の改正です。今までも日本国内で働く外国人労働者は長時間労働や低賃金の悪らつな環境や待遇で働かされています。労働が原因で病気や怪我をしてもまともに労災扱いされないことが目立ちます。これは雇用主が労災申請をさせないことと、外国人労働者に日本の法律を周知していないからと考えます。現在起きている問題をそのままにして、労働力が足りないから外国人労働

者を増やすということでは解決にはなりません。労働関連法や最低賃金を遵守し、働きやすい職場になるようにすべきです。

千葉職対連は毎月「労災職業病なんでも相談会」を行っていますが、最近は相談に見えられる方が少なくなってきています。しかし労災そのものが少なくなってきているとは考えられません。常任幹事会では、千葉職対連のホームページが壊れたこと、県内市町村の広報誌にスペースがなく相談会の案内記事掲載が少なくなっていることなどが原因ではないかと考えています。現在はパソコンや携帯モバイルが普及しており、できるだけ早くWEB検索ができるようホームページの作成を依頼しているところです。

職対連役員もだいぶ高齢化してきました。皆様のご協力のもとこの1年活動してまいりますのでよろしくお願いします。(会長 阿部 忠夫)

第18回関東甲信越学習交流集会に参加して

2018年11月18・19日、群馬県安中市磯部で開催された集会には特別の思いをもち参加しました。私の東京の活動場である大田労災職業病患者会の問題です。「教育行政」当局により分限免職された会員二人が権利回復を求めずっと闘いに取り組んできました。県立高校の教師をしていた一人の会員は解雇に相当する重大な落ち度もないのに「指導力不足」の口実で「研修所」送りされました。そこでは適切な研修もされないまま期間満了で「分限免職」処分されたのです。学校では校長などによるパワハラなどの指導力問題もおこっていますが「学校教育」を担当する「文科行政」当局が対応不能に陥っ

ているのではないかという恐れもあります。

歴史的に見れば明治維新以来の日本の「学問・教育」は、愚かな軍人・政治家を輩出し主体性のない国民を生み、その結果が「無謀な侵略戦争」を進め、日本の歴史上初めての「亡国」に導いたのではないのでしょうか。

この教育問題は絶対にゆるがせにできないと思われるので、部外者ながら交流集会第三分科会の「教職員の働き方を知りたい」に参加したのです。

分科会の座長は、いの健埼玉センターの八木氏が担当し、産業カウンセラーで助言者の杉本正男氏からは長年の経験に基づく現場報告、(裏面につづく)

「学校の安全衛生活動での真の働き方改革を」という報告をもとに討議は進められました。さらに事前用意の映像資料による「改めて考える学校とは」のテーマで森山敏晴氏（川口市教職員組合）が報告されました。また、分限免職を闘っている方のチラシを説明されました。

この会議では、教師の過労死問題に取り組むには、同時に生徒たちの学習問題も欠かせないものと知りました。生徒が学校に行きたくないという登校拒否には、「授業が分からない、授業が面白くない」という学校教育における「授業」という基本問題もありますが、これも視野にいれながら総合的な取り組みが大切と痛感しました。いま公立の小中高等学校

の教職員では5、6千人もの多くの方が「メンタル不全」で休職しています。授業をする先生自身がやんでいるのは教育の大問題です。教育行政当局は長時間労働が影響しているという認識があるようです。その働き方改革をめぐるっては、全体集会で尾林弁護士による記念講演がありました。自分の弁護士活動の経験をもとにした話は具体的であり、法律的な話は戦いの武器として労働組合が有効に利用できる貴重な内容でした。

今後も教育・学問問題について報告していきたいと思えます。関心をお持ちの方々のご意見などをお待ちしていますのでよろしくお願いいたします。

（千葉職対連幹事 網野裕）



「明治維新」と「日本破滅」との関係 (その3)

その日露戦争前後ですが、司馬氏は「現実感覚を失った国民のうぬぼれが日本を悪くしたのです。もう日露戦争後は全部悪くなっていく。戦勝後、新聞、雑誌、教育の現場でじつはこうだったと真相を教えるべきでした。真相というものを軍は、秘密にして、秘密にして（*5）、国家もリアリズムという感覚を持たない陸軍や国民をつくってアジアを巻き込みつつ国をほろぼしてしまった・・・」と嘆いています。これを眼にした時私は驚きました。「坂の上の雲」で司馬氏が描いたものとはちょうど180度反対の内容ですが、やはりこれが歴史の事実だったのです。

*5：「秘密にして、秘密にして」

当時、「戦争の真相を何も知らされなかった日本人」は、「不満足な講和条約に調印した日本政府外交に憤慨」し腹立ちまぎれに暴動を起こし、政府寄りの新聞社襲撃事件や日比谷焼き討ち事件を起こしました。庶民が怒りを爆発させた原因は当時の政府と軍部が戦争の真相を隠し、あべこ

べに戦争を描き続けたからです。「勝った、勝った」と威勢のいい情報を流した結果、日露戦争の実態を知らない国民には小説のような臨場感のない戦争でした。歴史の事実を改ざんすると国民を誤魔化し問題を重大化するという「歴史修正主義」の過ちの悲劇ともいえます。この歴史修正主義はその後も敗戦まで途絶えることなく続きました。政府も国民も軍人たちの暴走を止められず一直線に破局へ進みました。これが破滅した原因であり最大の教訓でした。権力の私物化と歴史修正主義の恐ろしさです。

半藤氏と司馬氏の二人の考え方から指摘できることは「明治維新の始めの40年」で政府は「人づくりを過ち始め」、「そのようにして育成された次世代指導者」が第一線舞台に立つようになる「次の40年でその指導者たちが日本を滅ぼした」といえるのです。つまり「明治の元勳たちは、次世代を担う人物の教育に失敗した」といえます。（北辰）

（次号へつづく）

当面の取組日程

千葉職対連事務局

2019年

- | | | | |
|---------|--------------|--------|-----------------|
| 1・9(水) | いの健千葉理事会 | 18:15~ | 自治体福祉センター |
| 16(水) | 千葉職対連常任幹事会 | 17:30~ | 千葉民医連事務センター |
| 26(土) | 労災職業病なんでも相談会 | 13:00~ | 成田市中央公民館 |
| 2・20(水) | 千葉職対連常任幹事会 | 17:30~ | 千葉民医連事務センター |
| 23(土) | 労災職業病なんでも相談会 | 13:00~ | 千葉市中央コミュニティセンター |

